

# 国際華語特別集会メッセージアウトライン

2012年1月25日—26日

## 主題：神聖な啓示の心臓部

メッセージ 3

### エペソ人への手紙——召会が啓示を得るようにとのパウロの祈り

聖書：エペソ 1:15-23

エペソ 1:15-23 こういうわけで、わたしも、あなたがたの間の主イエスにある信仰と、すべての聖徒に対するあなたがたの愛を聞いたので、16 あなたがたのために絶えず感謝して、わたしの祈りの中であなたがたのことを覚えています。17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の御父が、知恵と啓示の霊をあなたがたに与えて、あなたがたに彼を十分に認識させ、18 あなたがたの心の目が照らされ、神の召しの望みがどんなものであるかを、あなたがたが知るように。また聖徒たちの中にある神の嗣業の栄光が、どんなに豊富であるかを知るように。19 また神の力強い大能の活動にしたがって、信じるわたしたちに働く彼の力が、どんなに超越して偉大であるかを知るように。20 神は、その力強い大能をキリストの内に働かせて、彼を死人の中から復活させ、彼を天上でご自身の右に座らせ、21 すべての支配、権威、力、主権、そしてこの時代ばかりではなく、来たるべき時代においても唱えられるあらゆる名を超えて、はるかに高くされました。22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました 23 この召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です。

#### I. エペソ人への手紙は、聖書において最も深い事柄である召会を取り扱っています。それは七つの面において召会を明らかに示しています：

- A. 召会はキリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満、表現です—— 1:23, 4:13。
- B. 召会は新しい人、団体の人であり、キリストの命を持っているだけではなく、彼のパーソンも持っています—— 2:15。
- C. 召会は神の王国であり、国民としての聖徒たちを伴っています。彼らはその権利を所有しており、その義務を担っています—— 19 節。
- D. 召会は神の家族、すなわち命と享受に満ちている家です—— 19 節。
- E. 召会は神の住まいであり、神は宇宙的に主の中にある聖なる宮の中に生き、地方的にわたしたちの霊の中にある神の住まいの中に生きます—— 21-22 節。
- F. 召会はキリストの花嫁、妻であり、キリストの安息と満足のためです—— 5:24-25。
- G. 召会は戦士、団体の戦士であり、神の敵を対処し、打ち破って、神の永遠の定められた御旨を成就します—— 6:11-12。

#### II. エペソ人への手紙第 1 章 15 節から 23 節は、召会が啓示を得るようにとの使徒の祈

りです：

- A. わたしたちは召会を見るために、見る霊、啓示する霊、すなわち、知恵と啓示の霊を必要とします——17節：
1. 最も賢い人は、霊の中に生きる人です。もしわたしたちが霊の中にいないなら、わたしたちの日常生活においてどんなことについてもはっきりしません。わたしたちが物事をはっきり見ることができる唯一の場所は、わたしたちの霊の中です——I コリント 2:11 前半、啓 1:10、4:2、17:3、21:10。
  2. わたしたちが霊の中にいるとき、何もわたしたちを妨げることはできません。わたしたちはみな霊へと戻り、霊の中にとどまることを訓練しなければなりません。
  3. 召会を認識するために、あるいは召会についての何かを見るために、わたしたちは霊の中にいなければなりません。わたしたちは思いに信頼すべきではなく、わたしたちの霊へと戻ることによって、神と協力しなければなりません。
  4. わたしたちが霊に転向して、そこにとどまるなら、召会はわたしたちに啓示されることができます。
- B. パウロはわたしたちのために祈りました。それはわたしたちの心の目が照らされて、三つの事柄、すなわち、神の召しの望み（エペソ 1:18）、神の嗣業の栄光（18節）、超越して偉大な神の力（19節）を見るためです：
1. 神の召しの望みは、「あなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望み」です——コロサイ 1:27：
    - a. わたしたちによって十分に認識され、経験され、獲得されたキリストが、わたしたちの召しの望みです——ガラテヤ 1:15 前半、16 前半、2:20、4:19。
    - b. 神はわたしたちを召し、わたしたちを義とし、わたしたちを栄光化し、わたしたちをご自身の御子のかたちと同形化されます（ローマ 8:29-30）。ある日、わたしたちはみなキリストと完全に同じになります（I ヨハネ 3:2）。
    - c. わたしたちの望みは、キリストのかたちに完全に同形化されることです。これがキリストの享受の究極的完成であり、これが神の召しの望みです——ピリピ 3:21。
  2. わたしたちの中へと造り込まれたキリストだけが神の嗣業となることができます。こういうわけで、わたしたちは造り変えられ、新陳代謝的に変化し、キリストのかたちに同形化される必要があるのです——ローマ 12:2、II コリント 3:18、ローマ 8:29：
    - a. わたしたちがみな極みまで造り変えられ、変貌させられ、キリストに同形化される時、神は幸いになります。
    - b. 愛する聖徒はみな彼の嗣業となります。この嗣業は彼の信者たちの中へと完全に造り込まれたキリストご自身です。
    - c. 実は、わたしたちの中へと造り込まれたキリストが召会です。ですから、召会は神の嗣業です。
  3. わたしたちは、召会を生み出す超越して偉大な神の力、キリストを復活させた力、彼を天上で座らせた力、万物を彼の足の下に置いた力、彼を万物の上にかしらとして召会に与えた力を見る必要があります——エペソ 1:19-23：

- a. この四重の力、すなわち、復活させ、超越し、服従させ、支配する力が召会を生み出します。それは「信じるわたしたちに働」き（19 節）、「キリストのからだである召会に」です（22-23 節）。
- b. 「召会に」とは、一種の伝達を暗示します。かしらなるキリストが到達し、獲得したものは何であれ、彼のからだなる召会に伝達されます。この伝達の中で、召会はキリストと共に、彼が到達したすべてのものを分け合います。すなわち、死人の中からの復活、彼の超越の中で座らせられること、万物を彼の足の下に服従させること、万物の上の頭首権です。
- c. 「信じるわたしたちに」と、「召会に」が示すのは、三一の神が経過したすべてのものを含む神聖な力が、一度で永遠にわたしたちの中へと設置されており、そして継続的にわたしたちの中へと伝達されつつあり、わたしたちにキリストを豊かに享受させ、彼のからだ（彼の豊満）としての正当な召会生活を持たせるということです（22-23 節）。
- d. この力はわたしたちの中に設置されていますが、わたしたちはみな主を仰ぎ望まなければなりません。それはわたしたちの能力が拡大されてこの力を経験するためです：
- (1) わたしたちはわたしたちの内側の復活させる力を経験するために、死から完全に出てくる強い願いを持つ必要があります。わたしたちの間に死があればあるほど、ますますわたしたちは召会を所有しません。わたしたちの間に死がなければならないほど、ますます召会があります。
  - (2) わたしたちのすべての問題は、わたしたちが超越する力を経験するための機会です。わたしたちがすべての環境において超越する力を経験するなら、召会は現されます。
  - (3) わたしたちは召会生活において外側の決まりを持つべきではありませんが、服従させる生活をするために服従させる力を必要とします。わたしたちが神の服従させる力を完全に経験するなら、召会生活は完全に現されます—— I コリント 6:12. 10:23。
  - (4) キリストは万物を支配し、わたしたちは彼の支配することにあずかります。万物がかしらと彼のからだの支配の下に来るとき、召会は現されます。
- e. いったんわたしたちが召会を生み出す力を見たなら、わたしたちの唯一の必要は死にもの狂いになることです：
- (1) わたしたちは祈るべきです、「主よ、わたしは死にもの狂いになって、わたしを抑制し、服従させ、支配するいかなるものからも救われます」。
  - (2) キリストは発電機としてわたしたちの内側にいます、彼はダイナミックであり、力強いのですが、わたしたちの協力を必要とします。
  - (3) わたしたちは死にもの狂いになることによって、能力を拡大する必要があります。そうすれば、わたしたちは自分たちの地方において召会の出現を見ます。